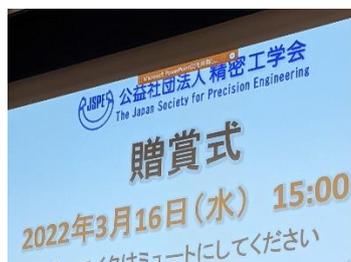


# 2021 年度（令和 3 年度）精密工学会高城賞 贈賞式

於：2022 年度精密工学会 春季大会 贈賞式

2022 年（令和 4 年）3 月 16 日（水）午後 3 時より、東京工業大学大岡山キャンパス デジタルホールにて、精密工学会高城賞の表彰式が執り行われ、理事長代理で古谷涼秋評議員が出席し、2 件の論文に授与いたしました。



高城賞とは、精密工学分野で独創性に優れ、工業的価値が高いと認められる論文で、その内容が産業界全体で実施されたものを対象とし、精密工学の基礎技術分野での産業界の活動を促進することを目的として贈賞されます。この賞は論文著者個人を贈賞するとともに、それを可能とした中心的研究開発実施機関もあわせて表彰する特徴のあるものです。

賞の名称の由来は、当財団に基金を出捐した創設者のうちのお一人で、精密測定技術の発展に貢献した技術者として精密工学会名誉会員であった元(株)東京精密の会長の高城誠氏の姓を冠して設置され、今年度は 1990 年度から通算 32 回目の贈賞となりました。



1. 加工フィーチャを用いた事例ベース推論による作業設計支援システムの開発に関する研究  
(精密工学会誌 87 巻 6 号) 浅野哲也様 (アイコクアルファ), 塚本涼様 (東京農工大), 中本圭一様 (同左)
2. 直動ボールガイドの減衰性に関する研究—玉と R 溝の接触における減衰モデルの提案と検証—(精密工学会誌 87 巻 8 号) 今井竜也様 (THK), 野口昭治様 (東京理科大)